



【進路行事について】

《1・2学年 卒業生による合格者ガイダンス 8月21日(月)》

東北大学・東京大学等に在籍する本校卒業生によるオンライン講演会を実施し、大学や学問の魅力・入学前に必要な心構え・高校時代の生活等に関する話を伺い、進路決定の指針や学習の参考にして意識を高めることを目的として実施しました。

【課題発見力】【自己実現力】【自己管理能力】

《ガイダンスの内容》

志望理由、大学生活について、在校生へのアドバイス、研究テーマ、部活動と学習の両立、不得意科目の克服法、モチベーションの保ち方など

《ガイダンスの感想》

●感想 夏休み、あまり勉強に集中できず計画倒れになっていたところでのガイダンスを受けることができて本当に良かった。ずいぶん不安だった、都会の中高一貫の見えない敵が、意外と自分たちと同じ普通の高校生であること、無理に塾に行かなくても学校の授業を真面目に取り組めば十分であることも知り、勉強に対する気持ちが軽くなった。まずは決められた課題を終わらせ、これからの高校生活を有意義なものにしたい。

●感想 A0入試と総合型選抜についてよく知り、チャンスを増やしたと強く感じた。また、東北大学東大に行き、先輩方があまり参考書を使わないことに非常に驚いたが、より授業の重要性が理解できた。また、私は今、自分の成績について自信が不安に感じていたが、とても安心できた。また勉強の目標のモチベーションを高めるために、私は将来像を明確にし、大学についてよく調べ、学校の授業により一層集中していった。

●感想 ただがむらいらに勉強するのではなく、自分の弱点を分析したり、目的を考えたりして、効率的に勉強しているというお話が印象に残った。急いでやるべきこととして応用を考えたことではなく、まずはしっかり基本を固めるべきではないかと。授業には大抵なことがたどり着いていて、何れもまず授業をしっかり理解することが大切だと思った。推薦を望むのはハードルが高い印象があったが、チャンスが必ずあり、失敗しても悪影響はないことを考え、早速申し込みをした。1,2年のうちに、勉強の基礎は完璧にできる!

●感想 先輩方が大学生活についてお話ししてくれたときの姿を見ていたら、大学の楽しい雰囲気が伝わってきて、前向きな気持ちになりました。また、皆さんそれぞれ背景も得意不得も違い、自分に合った勉強のしかたを持っていることが分かりました。やはり大事なのは、自分に合ったやり方を見つけて努力することなんだと思います。私は部活と両立しながら、志望校に合格したいので、とにかくスキマ時間を活用して勉強をしていきます!そして、自分の得意科目以上に興味がある分野を重視して進路を決定するぞうにしたいです。

●感想 今回進路ガイダンスに参加して、難関大に合格した先輩のやり方と勉強時間の使い方が違っていると感じ、自分のやり方を見比べて驚き通した人が受けるのだと思いました。また、一番らしさをしたり大学生になりたてと半分学生、半分社会人で、全部自分で決めてやらないといけないというお話が印象的でした。大学生で自律した生活を送り、勉強を続けるためにも、今から生活面も見直したいと思いました。

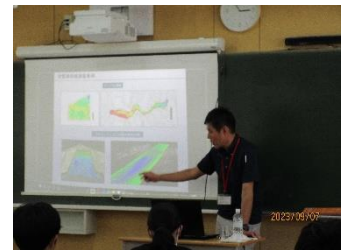
《1学年 職業ガイダンス 9月8日(木)》

各分野で活躍する職業人を招き、「仕事」が社会をどのように動かしているのか、そのためにはどのような資質・能力が求められるのかを知ることを目的として実施しました。 【自己実現力】【課題発見力】【受信力・発信力】

《ガイダンスのテーマ》

- ・ 検事の仕事等について
- ・ 世界を舞台に働く -国際機関での経験を通して-
- ・ 経済・金融のお話と日本銀行で働く意義
- ・ キャリアと人生設計
- ・ 土木分野におけるICT活用事例と動向について
- ・ 医学部へ行こう
- ・ 青高OBの診療放射線技師が医療職に興味を持つ皆さんに伝えたいこと
- ・ マスコミ学入門～発想力を磨こう～
- ・ 再生エネルギーと風力発電

《ガイダンスの様子》



【大学とはどのような場所か】

大学とは研究機関です。研究とは、探究を重ねながら、最先端を見つけること。つまり学問の力で既知の領域を広げることです。言い換えると、世の中で分かっていないことと解き明かされていないことを学問の力で解き明かしていく場所です。最初は、調べて答えを出すことを繰り返し、わかることとわからないことの仕分けを重ね、最終的に知の最先端に到着する。このように、学問の積み重ねをもとに既知の領域を広げていこうとするのが、研究をする人の立場となります。

【課題設定】⇒【情報収集・調査・実験】
⇒【検証・整理・分析】⇒【まとめ・表現】

「研究機関である大学はどういう人を求めているのか」

大切な資質の一つは「学力」です。確かな「学力」を有した上で、研究テーマを持っていて、そのテーマをしっかりと**自分の言葉で語る人**が大学に期待される人物です。

つまり、「自分は〇〇という分野に興味があり、その中で〇〇がわかっていないので、このわかっていない領域を学問の力で切り拓きたい！」と考える人が求められます。

これらの肝となってくることが「自己と学問との接続」であり、その**基礎・土台となるのが高校生活における日々の授業**になります。

「大学での計画を立てる」

- ①なぜその学部学科を選んだのか【学部学科の選択理由】
- ②なぜその大学を選んだのか【大学の選択理由】

①②を踏まえて、大学で何を学び、どのような問いを解き明かしたいのかを考えてみましょう。この問いはあなた自身が生きてきた足跡に由来します。あなた自身が学校の授業や課外活動を通して様々な教科・分野・フィールドワークを経験し、その世界に身を浸し、アンテナの感度を高めていくと、探究の種【問い】が見つかります。探究は、**自分が興味のあることを突き詰める側面もあれば、世界の人々を豊かにするために行われる側面も持ち合わせている**ものです。こういう話に興味がある、こういうことに疑問を抱いた、こういうところが気になる。そうしたものを掘り下げ、磨き上げ、この大学ならそれが達成できそうだという見通しを立て、大学生活での学びの計画を立ててみましょう。

「今やるべきことは何か」

・大学の役割や大学で学べることを、大学のHPや雑誌を使って探り、可能であれば実際に訪れてみる。

【情報収集】

・大学在学中や大学を卒業してから、他者や社会に対して自分が「やるべきこと」「できること」は何かを考える。

【課題設定】

・「自分がやるべきこと」「できること」は何かを設定し「どの分野の知見であれば解決できるのか」を考える。

【検証・整理・分析】

・「自分がやるべきこと」「できること」を考える中で、「自分が本当にやりたいこと」を考える。

【まとめ・表現】

私達は日々の生活の中で、多くの問題や課題を抱えています。日々の学校生活や授業の中で、様々な問題・課題を見つけ、他の人と共有し合い、それを解決する方法を探ってみましょう。

実際に自分で体験すること、経験することが重要です。

多くの体験や学びを通して自分の価値観や視野・視点を広げてください。固定概念・常識だけに囚われることなく、自分の可能性を信じて行動してみてください。

世界の広さを知ること、自身の未熟さを知り、謙虚さを得ることができます。未熟さと謙虚さは、学びの質や機会を飛躍的に向上させてくれます。

その過程で自分のやりたいことや学びたいことが少しずつ見えてきます。

なかなか自分のやりたいことが見つからないという人におすすめなことは**なぜを繰り返し「自分自身と対話して、相手に伝える」**ことです。まずは以下の流れで、自分自身を見つめ直していきましょう。

- まずは、自分の興味・関心は何かを考える
- ⇒ 興味・関心を、特徴・性質ごとに分類する
 - ⇒ 分類した中から、問題意識を見つける
 - ⇒ 問題意識を持ちながら、行動し経験する
 - ⇒ 経験したことを基に、自分のテーマを設定する
 - ⇒ 経験とテーマを一体化させ、自分の主張を持つ
 - ⇒ 自分の主張を、他者が理解できるように伝える